

ご近所の お医者さん

□
744
□

早川クリニック院長 早川潤さん 一大阪市中央区

婦人科という選択

「最近なんとなく疲れやすい」「以前より体調の波を感じる」。そんな変化を「年のせいかな」と思うことはありませんか。忙しい日々の中では、その違和感を深く考えず、つい後回しにしてしまいがちです。年齢を重ねることで体調

が変化するのは誰にでも起こるもの

ですが、その背景には体の仕組みの変化が関係していることもあります。

女性の体は、思春期、成熟期、妊娠・出産、更年期、そして老年期へと、長い時間をかけて変化していきます。



「年のせい？」と思ったら

女性ホルモンの一つであるエストロゲンは、40歳前後から少しずつ低下し始めると言われています。その変化は緩やかですが、体にはさまざまな影響が表れてきます。

更年期の症状として知られるのほせ

や発汗だけでなく、肌の乾燥や疲れやすさ、関節の違和感など、日常生活の中で感じる小さな不調として表れることもあります。またエストロゲンには、「骨を丈夫に保つ」「血管をしなやかに保つ」「脂質のバランスを整える」といった働きがあります。そのため減少が進むと、骨粗しょう症や脂質異常症、動脈硬化などのリスクが徐々に高まることも分かっています。

婦人科は、こうした体の変化を単に

病気として判断するだけの場所ではありません。日々の体調や生活の中で感じる違和感を整理し、必要に応じて医療につなぐ機能を果たしています。実際の診察では、まずお話を伺い、体の状態や不安に思われていることを一緒に整理していくことから始めます。

「こんなことで受診してもいいのかな」とためらわれる方もおられますが、

婦人科は年齢に関係なくすべての女性が利用できる

できる場所です。生理の悩みだけでなく、年齢とともに表れる体調の変化や健康相談など、女性の体を長い視点で見守る役割も担っています。

体の変化を単に「年のせい」と片付けてしまうのではなく、その声に耳を傾けること。それが、これからの人生を健やかに過ごすための大切な一歩になるのかもしれない。私たち婦人科は、その気付きにそっと寄り添う存在でありたいと願っています。